

3. 長期調査対応方針及び結論

調査確認事項	事前調査団派遣時の対応	長期調査時の対応方針	結論
<p>1. グァテマラ側プロジェクト実施体制 (1) 本件実施機関が未特定である。 本件は厚生省マラリア局を実施機関として、厚生省が提出されたが、厚生省をプロジェクト実施機関と確定するには、以下の点を解決する必要がある。 ア. 研究所設立後の運営管理に当って、厚生省の予算負担能力に対し危惧がある。 イ. マラリア局でのカウンターパートの十分な配置(数と質)が可能か否か。 他方、国立サン・カルロス大学は、人材(研究者)及び予算面で厚生省よりも有利な状況にある。</p>	<p>調査団は、双方の主要関係者と協議の結果、下記事項を考慮し、本件については、医療行政を掌握する厚生省を実施機関とし、研究面で大学の協力を得ることで合意した。 ア. 研究成果を行政に反映させる。 イ. 従来我が国の協力の延長に位置付ける。 ウ. 厚生省とサン・カルロス大学との間に人的交流の取り決めがあり、大学側としても厚生省に対して全面的支援を約束している。 エ. 同国大蔵大臣及び厚生大臣をはじめ、関係者が本研究所の運営・維持管理に係る予算確保を約束している。</p>	<p>本件プロジェクト実施にあたり、厚生省マラリア局が責任機関であることを再度確認する。 後述する先方の実施確認回答を基に、本調査時に、プロジェクトの組織について先方と協議・検討し、同時に、先方の意見等も聴取する。</p>	<p>今般、熱帯病研究所プロジェクトに替わり先方より新たに感染症研究所プロジェクト案が提出されたこと、先方協力要請内容と日本側協力内容が合致していないことが判明した。 なお、感染症研究所プロジェクトに対する先方の期待と意欲は強く、感染症研究で双方合意を得るならば実施機関は厚生省衛生総局が適当であると表明している。</p>
<p>(2) プロジェクトサットサイト(研究所建設場所)が未特定である。</p>	<p>調査団は、下記の理由からプロジェクトサイトを既存の厚生省マラリア局に隣接させるべきであるとの見解を先方関係者へ示した。 ア. 技術的観点…研究スタッフの交流及びコミュニケーションが両機関(熱帯病研究所とマラリア局)にて容易であること。 イ. 管理的観点…上記両機関にて共通の人材及び施設を共有する利点があること。 ウ. アクセシビリティ…国立サン・カルロス大学、バエ大学等主要教育・研究機関、厚生省本省及び居住地域に近接している。よって、グァテマラ側は現有マラリア局に隣接した土地を検討中である。</p>	<p>先方が本件サイトとしてマラリア局隣接地(調査時は、IG.S.S所有地)を「熱帯病研究所建設地」に確定したか否かについて調査、確認し、確保された土地の面積、周囲の環境等についても詳細に調査する。</p>	<p>国立ルーズベルト病院隣接地を特定したことが判明した。</p>
<p>(3) カウンターパートの配置 同国厚生省独自で本研究所運営に必要な人員を配置できないことは明白であり、それ故サン・カルロス大学等よりカウンターパートを発掘・補充することで、厚生省と大学との間で合意が得られているが、両者の関係調整につき調整を要する。</p>	<p>グァテマラ側が本件技術協力のカウンターパートとして約12名の研究者(各研究部門に3名配置)を用意すること並びにグァテマラ側規定により、少なくとも一定期間プロジェクトに従事させることを要請した。 又、本研究所構想は、全グァテマラの保健医療問題として取り組む必要性があるところから、マラリア局以外に国立サン・カルロス大学、バエ大学等から広く人材を求めることが肝要である。 よって、この方針に沿って本件実施につき、厚生省との人材交換・交流に関して上記大学関係者とも協議を重ね、両大学から人材提供を含め、協力を惜しまない旨の回答を得た。</p>	<p>厚生省マラリア局での本プロジェクトにつき調査、確認の上、必要は指導、助言を行う。 マラリア局には、方法的技術分野の人材は必ずしも充分とは言えず、よって、国内の熱帯病研究機関からの人材(研究者)手当てが円滑に行なわれるか否か、関連機関の協力体制の整備状況についても、調査、確認する。</p>	<p>その結果、前述の如く、先方厚生省は、本件事業内容を感染症を主体とした研究所設立を希望しており、再度、日本側と協議した上で、双方の合意に到達したいとしている。よって、事業内容の確定を待って、カウンターパートの発掘・配置を進めたいとの回答を受けた。</p>
<p>(4) 予算措置(運営管理費の確保)</p>	<p>グァテマラ政府が、カウンターパート研究者、技術者及びその他の職員の人件費、研究所運営費、管理・維持費等に対し、適切な予算措置を講ずるよう要請した。</p>	<p>本研究所運営・維持管理の為、先方が中央政府へ要求中又は中央政府より承認された予算額、予算項目について調査する。</p>	<p>その結果、先方厚生省は前述の如く、協力分野及び内容で日本側と合意を取り付け、研究所の機能・役割を確定した上で、研究所運営管理にかかると必要経費を積算し、これに係る予算措置に努めると表明した。</p>
<p>※なお、(2)、(3)、(4)に関して、事前調査団協議議事録で、1989年11月30日までにグァテマラ政府より、その対応方につき日本側に回答が発出されることに双方が合意した旨記されている。</p>			
<p>2. プロジェクト活動計画 本件プロジェクトの活動範囲・協力内容を策定する。 [グァテマラ側からの本件プロジェクトに係る活動範囲・協力内容] ① 国民の高い死亡率の原因と考えられる伝播性疾病及びその他の感染性疾患に関する研究を進展させ、個人及び集団レベルにおいて、それら疾病の予防、抑制、治療分野の解決のための手法、手段を取ることとを目的とする。 ② 卒業研究及び研究者の確保、育成プログラムを通じ、熱帯病並びに優先度の高い感染性疾患分野で必要とされる人材育成を進める。 ③ 対象疾患の研究及び抑制に関し、活動インパクト及び研究所投資(設立)を測定するべく、評価手法を開発、実施する。 ④ 研究所にて得られた情報を国家レベルにて定期的に公開、広報を進める。 ⑤ 獲得した新技術の応用のため一般の保健医療セクターとの協力を行なう。 (研究、応用分野) 1) 人間生態学 2) ベクター生態学 3) 生物学(寄生虫学、微生物学、ウイルス学等) 4) 生物学コントロール 5) 疫学 6) 臨床 7) 疫学 8) 衛生昆虫学 9) 社会人類学</p>	<p>左記グァテマラ側の概念的プロポーザルに対し、 ① 熱帯病、とりわけ、グァテマラ及びその周辺において重大である伝播性媒介性疾患の診断、治療、予防及び抑制に係る研究。 ② 技術移転及び調査を通じ、グァテマラ及び周辺地域における保健衛生分野の人材育成の観点を示した。 更に、活動範囲・協力計画については、熱帯病の個々の疾病を取り上げることより、それらのみを対象にすることではなく、むしろ、熱帯病対策上、診断、治療、予防、抑制等の方法的切入口による基礎的、包括的技術及び研究が現在のグァテマラにとり、必要不可欠である旨の考えを提示し、グァテマラ側もこれを了解した。 (本件プロジェクトの活動範囲・協力内容) 1) 病原体同定と診断 2) 化学療法及び臨床研究 3) 伝播昆虫の生物学と防庄 4) 人間生態学</p>	<p>より詳細な活動範囲・協力内容については、本件実施に向けてのグァテマラ側の取るべき措置(プロジェクト・研究所建設場所の特定、カウンターパートの配置及び組織化、研究所運営管理の為の予算措置)の内容を分析し、協力の妥当性を確認した後、各専門分野の長期調査員を派遣し立案していくこととする。</p>	<p>しかし、本件事前調査時にグァテマラ側に託した三項目の課題に対する回答の替わりに、先方から新たに感染症研究所プロジェクト案が提出された為、グァテマラ側協力要請内容と日本側協力内容にずれがあることが確認された。</p>
<p>3. 日本側の技術協力計画 (1) 専門家派遣計画の策定</p>	<p>各部門 ①病原体同定・診断 ②化学療法・臨床研究 ③媒介昆虫学・防庄 ④人間生態学の長期専門家を中心に派遣が検討されることとなるが、チームリーダー及び調整員の他、少なくとも各部門1名の長期専門家に加えて、随時必要に応じ短期専門家を派遣して対応する。</p>	<p>先方によるカウンターパート配置状況(数・質)を見極めた上で、専門分野の長期派遣を開始することや、基礎的研究分野(寄生虫学、免疫学、病理学)の専門家派遣が優先されること等先方へ説明する。</p>	<p>説明できる状況になかった。</p>
<p>(2) カウンターパート研修員受入れ計画の策定</p>	<p>協力内容及びプロジェクト進捗状況に応じ、年間2～3名のグァテマラ側カウンターパートを受入れる。</p>	<p>厚生省マラリア局によるカウンターパート(研究者)配置状況、計画を調査、確認する。</p>	<p>事業内容の確定を待って、カウンターパートの発掘・配置を進めてゆきたいとの申し出を受けた。</p>
<p>(3) 機材供与計画の策定</p>	<p>長期調査員の派遣時に、機材供与計画(主要機材の内容と仕様検討)につき、相手国側の要望を聴取する。</p>	<p>グァテマラ側で手当てされる運営・管理予算規模を考慮した上で、供与機材の仕様検討作業に入る。 また、日本側技術協力には期間的制約があることから、機材の選定・仕様検討は技術協力終了時の視点を常に持って実施すべきである旨先方への説明を予定。</p>	<p>説明できる状況になかった。</p>

4. 調査結果報告

4-1 事前調査時の合意内容

(1) プロジェクトの目的

熱帯病、とりわけ伝播昆虫媒介性疾病の診断・治療の改善、及び抑制、それを通じての人材養成を行ない、もって、グアテマラ国の保健衛生の改善に資することとする。

(2) プロジェクトの活動内容

- ・熱帯病の病原体の同定・診断の改善
- ・化学療法・臨床研究
- ・伝播昆虫の生物学・防圧
- ・人間生態学

上記活動を通じ、診断・治療・予防・抑制等方法論的切り口による基盤的、包括的研究技術の開発、移転、研究を行う。但し、このことは、伝播昆虫媒介性疾病のみならず、あらゆる疾病（例えば、下痢症など）に対する研究の成果も期待できる。

4-2 グアテマラ側より新たに提示された感染症研究所プロジェクト案

(1) 感染症研究所プロジェクトの目的

本プロジェクトの実施で、保健の調査、特に、主として5才以下の乳幼児と社会経済的に低い階層の住民に高率の死亡率、罹患率をもたらしている重大疾病の調査拡大が推進される。

また、保健医療状況の改善に応え、同国の実情に沿った調査実施が企画され、よって、保健医療の最優先課題に対し具体的な対策の実施が容易となるであろう。

(2) プロジェクトの内容

本プロジェクトは、同国の死亡率と罹患率に対する伝染病影響を考慮し、グアテマラ国民に関心のある保健医療の重要領域に必要な研究と応用を実現し得る感染症研究所設立を目的とする。

下記感染症の専門学的研究が行われるものとする：

- a. 腸感染症（消化器系）：ウイルス性、細菌性、原生動物性、寄生虫性、下痢症
 - b. 呼吸器系感染症：肺炎（ウイルス性、細菌性）、結核、百日咳等
 - c. 高い死亡率、罹患率を有するその他感染症：はしか、破傷風、胞虫・プラズマ毒による感染症等
 - d. 伝播昆虫媒介性疾病：マラリア、デング熱、オンコセルカ症、レーシュマニア症等
- ・感染症に由来した死亡の10大原因を次に示す。（1981～1984年）
- ① 他の腸感染症（下痢症）
 - ② 肺炎（上部呼吸器感染症）
 - ③ 流行性感冒
 - ④ はしか
 - ⑤ 他の感染症
 - ⑥ 百日咳

- ⑦ 結核
- ⑧ マラリア熱（1987年は死亡数は¼に減少）
- ⑨ 細菌性赤痢とアメーバ症
- ⑩ 腸チフス

(3) 感染症研究所設立プロジェクトの目標

① 中期目標

- a. 同国で優先度の高い感染症の死亡率、罹患率の引き下げに貢献する。
- b. 感染症分野での保健部門の活動の効果を測定するための評価手法を開発・実施する。
- c. 同国において保健分野に参画する各種機関間の科学的交流を支援する。
- d. 研究所にて得られた新知識の応用のため、一般保健部門と協力する。
- e. 大学院の研究活動及び研究員の養成を通じ、恒久的な人的資源（人材）養成計画を遂行する。
- f. 全国に流布されている西語の定期刊行物及びその他の国際刊行物を通じ、研究所で得られた情報を普及させる。

② 長期目標

- a. 同国における高死亡率症例の解決方法を具体的かつ総合的に立案し、感染症の全国罹患率を引き下げるための研究とその応用を開発する。
- b. 重要な感染症に関する調査、研究を実施するため、適正な技術と人員を擁する基本的組織の研究センターを設立し、発展させる。
- c. 同国に現存する他の保健部門研究センターと作業の調整を行う。
- d. 研究所の研究領域に関係する保健分野要員を訓練する。

(4) 対象分野（領域）

- ・人間生物学
- ・環境
- ・生活様式
- ・保健サービス

これら領域における活動は、その原理体系を通じて、感染症研究所の活動のガイド手段となるべき疫学研究に基づくものである。疫学研究は、感染症の条件付きまたは決定的要因に係る知識を我々に提供し、これはグアテマラにおける今後のコントロールに資するものである。

(5) 活動内容（各領域の機能）

- ・研究
- ・応用（オペレーションへの反映）
- ・人的資源の開発・育成
- ・情報普及

4-3 総 括

我が国は、グアテマラ国に対して、オンコセルカ症研究対策プロジェクト（1975年～1983年）、マラリア対策ミニプロジェクト（1987年～1990年）を通じ、これら熱帯病対策への協力を進めてきているが、例えば、マラリア対策では殺虫剤の残留噴霧の効果判定も行われぬまま薬剤散布が続けられてきたことが原因で耐性蚊の出現をみるに至るなど思うように進展していないのが現状で、残留噴霧の有効性の調査・検討、有効な残留噴霧方式の検索、マラリア防圧のため、媒介蚊の殺虫剤抵抗性等の研究を科学的に実施し得る施設の創設は、グアテマラ国はもとより中米・カリブ諸国にとって非常に重要な意義を持つこととなる。

また、前記二プロジェクトでの現在に至るまでの協力成果・実績を今後の研究に反映させていく意味からも、同国での熱帯病に関する我が国の技術協力の継続が望まれる。

熱帯病研究所プロジェクトに係る事前調査協議議事録（ミニッツ）は、本年9月に先方厚生大臣、大蔵大臣と我が方調査団長との間で署名・交換され、本件協力事業の活動目的、内容、範囲、日本側の協力内容等について、勿論、実務レベルにおいても双方の合意を得ていたにもかかわらず、プロジェクトサイトの特定、予算措置、カウンターパートの配置の三項目の回答に替わり、先方厚生省技術委員会での検討結果として、新たに感染症研究所設立プロジェクト案（附属資料参照）が提出されたことは、誠に遺憾とするところである。

日本側へ提示された感染症研究所設立構想は、事前調査以前に我が方に打診があった腸感染症（下痢症）への協力要請に基づいたものであると思われる。

先方厚生省は、同国で主として5才以下の乳幼児及び社会・経済的に低い階層に属する住民に高い死亡率を誇る消化器系感染症、呼吸器系感染症、その他感染症を緊急に解決を図るべく重要課題として、我が方の協力を要請してきたわけである。

感染症研究所設立に係る先方厚生省側の意欲は強く、積極的であると受け止められるが、同研究所の機能、詳細内容、研究員の配置、運営管理予算措置については検討段階に止まっており、国内関係省庁及び教育・研究機関との協議・調整はなされておらず、同省技術委員会での検討結果の域を出ていない。

よって、事前調査結果を踏まえての伝播昆虫媒介性疾病を対象とした研究協力実施の再確認と新たに提出あった感染症研究協力要請の背景や内容把握のため、より詳細なる現地調査を実施する必要がある。

4-4 今後の対応

本件事前調査時にグアテマラ側へ託した課題（1. サイトの特定、2. 研究所運営予算措置、3. カウンターパートの指名・配置）に対する回答の替わりとして、先方から新たに感染症研究所プロジェクト案が提示され、グアテマラ側協力要請内容と日本側協力内容が合致していないことが判明した現況下で、熱帯病とりわけ伝播昆虫媒介性疾病を対象とした研究所設営に係る無償資金協力とプロジェクト方式技術協力を実施に移すことは時期尚早であり、協力実施再確認のための調査を実施する必要があると思われる。

プロジェクト活動範囲、日本側協力内容で双方の一致が見い出せるまでは、両政府間で協議され続

けてきた熱帯病研究所建設に対する無償資金協力の一時凍結は止むを得ず、継続審議案件として、早期実現に向け、両国政府関係者間で着実な調整を行っていくことが重要である。

前述の通り、先方より新たに感染症研究所設立プロジェクト案が提出越された背景には、当国の経済情勢の悪化と1990年度予算の国会不成立による厚生省予算の減少（1990年度予算は1989年と同額査定となり実質20%減となる）により、厚生省としても現時点での緊急案件である感染症対策（死因別死亡率の高い消化器系感染症や上部呼吸器感染症等）に優先順位を置かざるを得なくなっているものと思われる。

しかし、上記感染症研究所設立プロジェクト案は、疾病の診断・治療技術の開発や普及を図るものでなく、疫学的観点からの調査・研究成果を同国の保健医療行政へ反映させることを主目的とするところから、我が方へ期待する技術協力内容についても明確にすべき点が多い。

よって、今後の日本側の対応は、熱帯病（伝播昆虫媒介性疾病）研究協力に係る先方の意向を再確認するとともに、今般、新たに提出越した感染症研究所設立構想を詳細に調査することが考慮される。

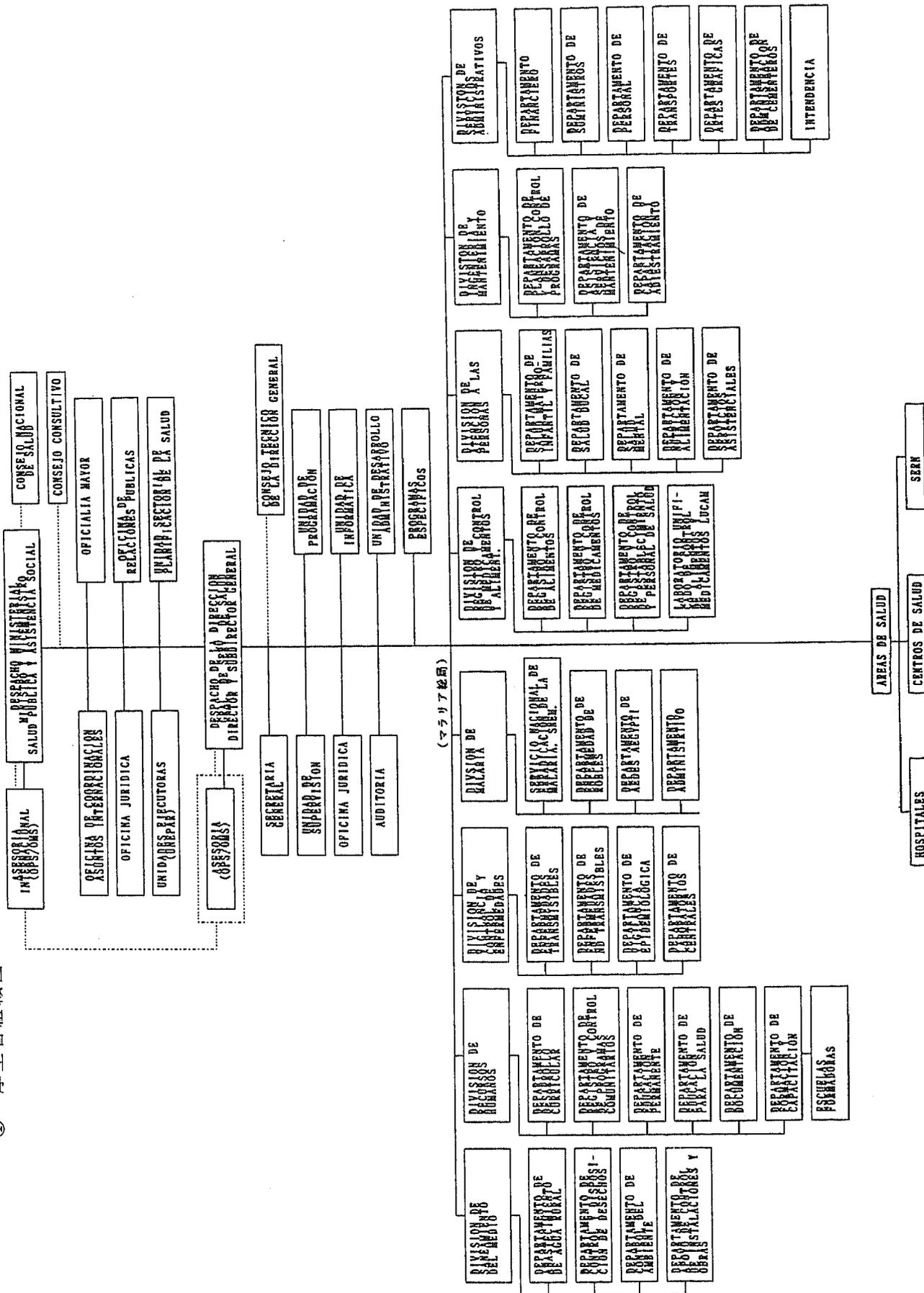
附属資料

- ① 厚生省組織図
- ② 厚生省マラリア局組織図
- ③ プロジェクトサイト候補地
- ④ グアテマラ国感染症研究所設立プロジェクト案（西語版）
- ⑤ グアテマラ国感染症研究所設立プロジェクト案（日本語版）
- ⑥ 事前調査ミニッツ
- ⑦ グアテマラ国側事前プロポーザル
- ⑧ グアテマラ国熱帯病研究所プロジェクト協力実施までのスケジュール
（89. 12. 1現在）
- ⑨ グアテマラ国熱帯病研究所プロジェクト協力内容

① 厚生省組織図

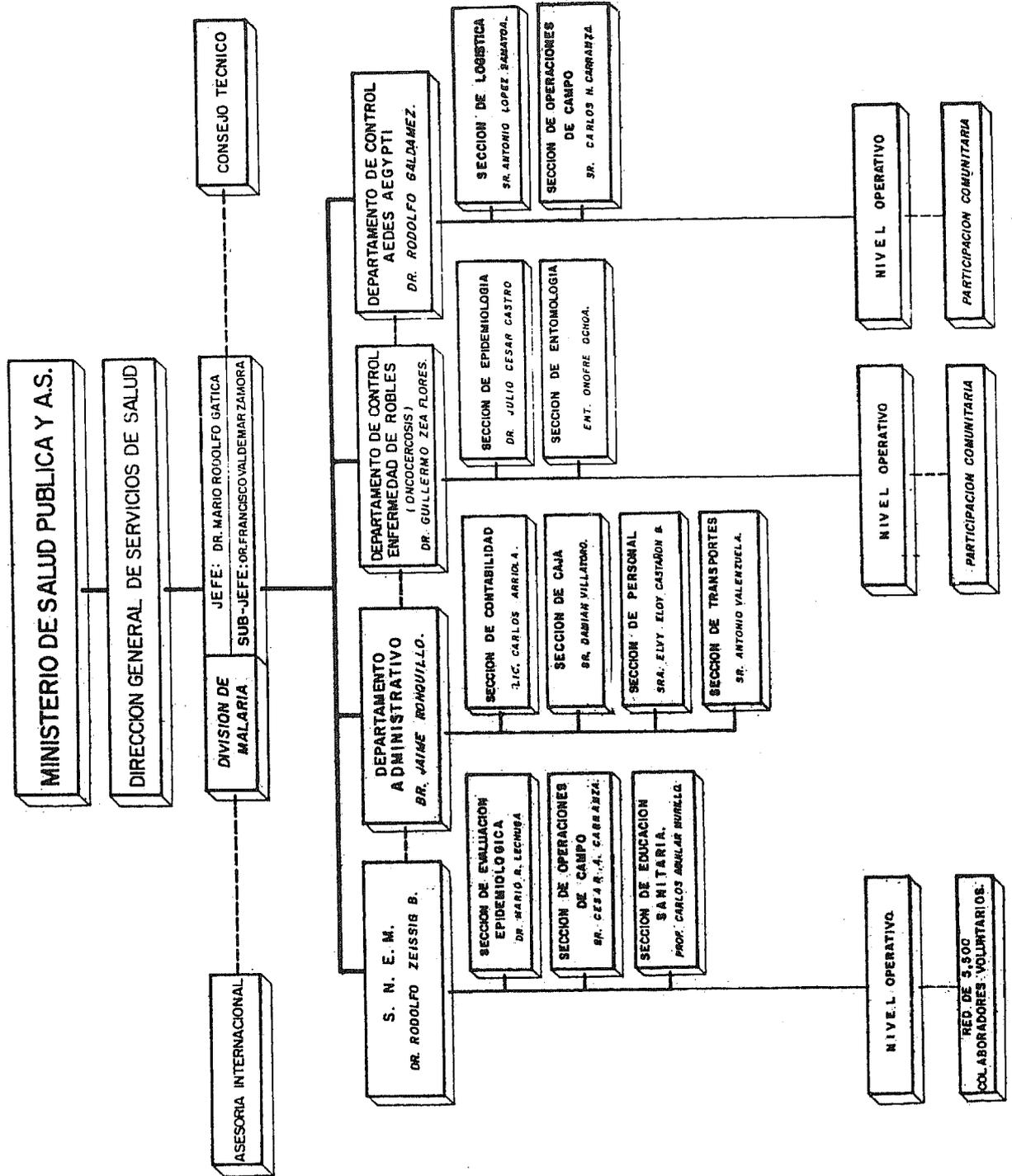
“ORGANIZACION DEL MINISTERIO DE SALUD PUBLICA Y A. S.”

① 厚生省組織図



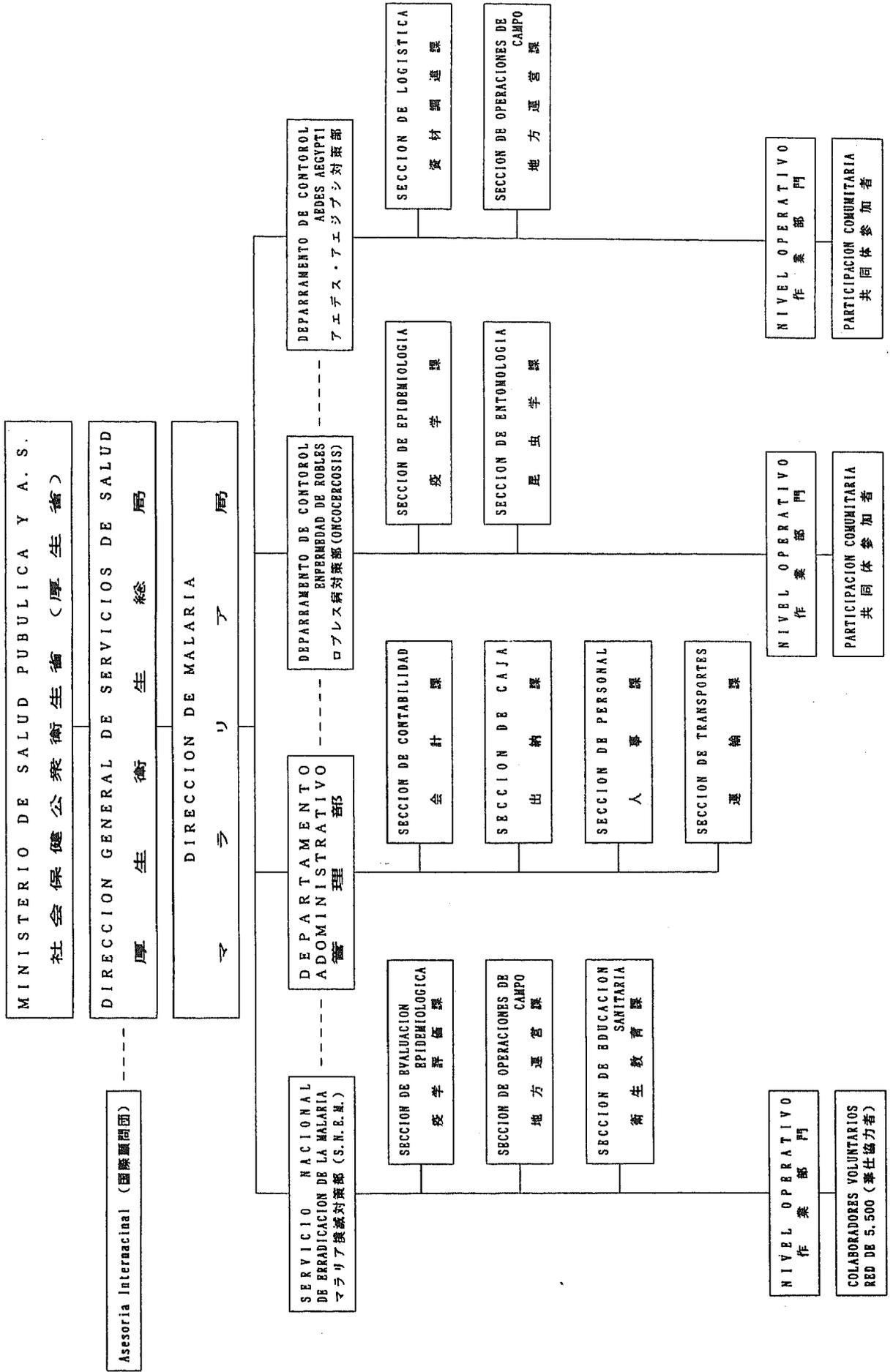
② 厚生省マラリア局組織図

ORGANIGRAMA DE LA DIVISION DE MALARIA



ORGANIGRAMA DE LA DIVISION DE MALARIA

マラリア局の組織図



③ プロジェクトサイト候補地

③ プロジェクトサイト候補地



IGM R-145 L-9 CIUDAD GUATEMALA ESC. APROX. 1:8,000 21/12/84

③ プロジェクトサイト候補地

